

令和3年度 日南市立桜ヶ丘小学校 学校運営協議会評価書

■ 本年度の重点課題 … 1 学力の向上 2 心の教育の充実 3 健康・安全の充実 4 家庭・地域との連携 5 働き方改革の推進

評価基準 「4」 「たいへんよく取り組んでいる」(90点以上) 「3」 「よく取り組んでいる方である」(70～89点)
 「2」 「少し改善(努力)することがある」(50点～69点) 「1」 「まだ改善(努力)をしなければならない」(50点未満)

評価項目	評価指標	学校の自己評価コメント	評価(平均値)		学校関係者評価コメント
			自己評価	委員評価	
1 学力の向上	① 一人一台のタブレット端末等のICT機器を有効に活用することで、子ども達にとって分かりやすい授業となるような工夫がなされている。	☆ 年間を通して校内研究(主題研究)においてICT研修を推進し、相互参観授業を実施(タブレット端末、ロイロノートの活用)した。 ☆ 「授業改善のKeyword」をふまえた取組を推進し、習熟の時間を確保した。 ☆ 朝のぐんぐんタイムの充実(1年生からの復習プリントの活用)を図り、学力の向上を図った。	職員13名 3.1	委員5名 3.8	○ 児童が楽しみながら積極的に授業に参加する姿を参観し、タブレットの良い点をうまく活用していると感じた。また、タブレット端末使用のルールや安全面も徹底していることを知り、安心した。今後、必要不可欠となるICTスキルを身につけることができると期待している。読書活動に関しても、委員会活動の中での読み聞かせや、長期休みの際の読書の推進など工夫されていると感じた。 ○ タブレット端末を使って、楽しそうに授業を受けていた。 ○ 全体的には、良く取り組んでいると思う。少数ではあるが2・6学年の保護者に少し改善する必要があるという意見もあるので、授業を理解できていない児童がいるのが気になった。 ○ ①については、導入後間もないので、今後ともさらに研修を深め、活用が促進されることを期待している。②については、授業を参観した際に、児童が先生方を信頼し、引き付けられている印象を受け、頼もしく感じた。③についても、読書活動が推進されていると感じた。 ○ タブレットを活用した読書推進も可能である。
	② 授業中の子ども達の発表の仕方や話の聞き方等は的確に指導されており態度も良い。	☆ 授業のルール「学習態度の指導」を作成し、授業前、授業中、授業後における7つのルールを徹底することで、学習態度の醸成を図った。			
	③ 子ども達の読書活動を推進するための手立てがなされている。	☆ 朝の読書活動、読み聞かせの時間を設定し、日頃より読書に親しむ環境づくりに努めた。 ☆ 「読書通帳」を活用し、家庭と連携(家読、読書だより等)して読書教育の推進に努めた。			
2 心の教育の充実	④ 子ども達への挨拶に関する指導は的確で、子ども達の挨拶も良い。	☆ 学校や地域における「元氣」な挨拶の励行を図るために、重点月間を設定し、全校集会において具体的な指導を実施した。 ☆ 教師自らが児童や保護者等に気持ちの良い挨拶を行い、率先垂範に努めた。	3.0	3.8	○ 登下校時や校内で、自ら挨拶をする児童をよく見かける。しかし、学校での先生の前と、そうでない場面を使い分けることも見られる。命を守るための指導は、適切になされていると感じた。自分の命はもとより、他人を思いやる気持ちを持つ児童が多いと感じた。 ○ 先生も児童も明るく、楽しそうである。 ○ 全体的に良く取り組んでいるが、保護者のあいさつに関する指導が的確でないという意見が気になる。また、教職員の指導についても、少し改善するところがあるという意見もあるので、気になった。命を守る教育については、今後とも徹底して行ってほしい。 ○ ④については、見知らぬ人への不安等もあり、誰にでも積極的にという時代ではないが、そのような中でも良くできていると感じている。⑤は、授業参観を通して児童が生き生きとしている印象を持った。⑥は、容易ではないと思うが、しっかりと実施してほしい。 ○ 家庭との協力も重要である。
	⑤ お子さんの学級の雰囲気は明るく、楽しそうに過ごしている。	☆ 月1回「心のアンケート」を実施し、児童の悩み等を把握し、いじめ等の早期発見に努めた。 ☆ 学期1回教育相談を実施し、児童の悩み等の解決に努めた。			
	⑥ 命を守るための指導(道徳教育等)が適切になされている。	☆ 「日南市レインボープラン」に従い、道徳・学活の時間を中心に、計画的に命の教育(性教育含む)を実施した。 ☆ 月に1回、下校指導の日を設定し、全職員で下校時の見守り活動を実施した。 ☆ 「保護者引き渡し訓練」も含む各種避難訓練を実施した。			
3 健康・安全の充実	⑦ 「元氣」をテーマに掲げることで、学校生活に活気がでている。	☆ 本校教育目標の中心に「元氣」を掲げ、全教育活動を通して、元氣がでる教育実践を目指した。	3.0	3.8	○ 「元氣」というテーマで、学校全体に活気を感じる。元氣いっぱい外で活動している姿、元氣いっぱいあいさつをする姿、元氣でいるためのマスク着用、手洗い換気などの徹底、そして、その元氣の源となる食育などの情報を「保健室だより」などで発信されていることで、学校だけではなく、家庭も「元氣」を意識できていると思う。 ○ 校長先生を筆頭に元氣である。 ○ 3つの評価指標について、保護者の方は高評価だが、教職員の評価では少し改善する必要があると感じる。健康・安全あつての学力向上であるので、改善点を見直してほしい。 ○ ⑦については、先生方の活気をよく感じる。⑧についても元氣に運動場で遊んでいる姿を見ている。 ○ 昼休みの外遊びに重きを置いているのは良い。
	⑧ 体力づくりにチャレンジする場や時間を設定し、日常的に体力向上に取り組む指導がなされている。	☆ 外遊びを推奨するため、学級担任や係活動における呼びかけを実施した。 ☆ 体を動かすことが楽しいと思える授業を目指し、体育振興教員による実技指導、授業研究会を実施した。			
	⑨ 保健や食育に関することについて、保護者への啓発がなされている。	☆ 家庭と連携を図った生活指導の充実を図るため、「保健だより」「食育だより」を発行し、学校保健委員会を通じて家庭への啓発を図った。 ☆ 肥満傾向にある児童へ肥満解消の取組及び歯治療率向上に向けた取組を実施した。			
4 家庭・地域との連携	⑩ 家庭や地域と連携した取組を発信している。	☆ 学校支援地域コーディネーターと連携を図った取組を推進し、桜ヶ丘地区自治会との米作りの実践(地域人材活用)等を行った。 ☆ 油津小、油津中との三校合同研修等の連携による教育活動を推進し、9年間を見通した児童・生徒の育成を目指した。	3.0	3.8	○ 学校だよりやホームページなどにより、必要な情報が家庭や地域にしっかりと発信されていると思う。コロナ禍でも、家庭や地域と連携した動きを考えて実行しているように感じる。 ○ 学校だよりで情報をもらっている。 ○ ⑩の評価指標について、保護者の方は高評価だが、教職員の評価では少し改善する必要があると感じる。改善点を見直してほしい。校長、教頭先生には、油津地域協議会への参加、青バト活動への協力をしていただいており、大変ありがたく思っている。 ○ ⑩については、良く努力されていると感じる。⑫については、昨年度の評価を参考にされながら、しっかりと学校経営をされていると感じる。 ○ 学校の方針について、小忠実に連絡してもらっている。
	⑪ 学級や学校は、必要な情報を家庭に発信している。	☆ 「学校ホームページ」の更新、「学校便り」の発行等による情報の発信に努め、緊急時等の「桜Eメール」での情報提供を実施した。 ☆ 油津地域協議会をはじめ油津地区における集会等での情報の発信と収集に努めた。			
	⑫ 昨年度の学校評価を活かした学校運営がなされている。	☆ 学校運営協議会による評価等、各種評価による成果と課題を明確にして学校運営の改善に努め、重点目標の設定を行った。			
5 働き方改革の推進	⑬ 「日南市小中学校における教師の勤務時間の上限に関する方針」の徹底を図っている。	☆ 役割達成度評価における目標設定を実施し、中間ミーティング、評価面談における啓発を実施した ☆ 帰庁時間の意識付けを図るため、「かえるボード」を設置し、帰宅時間を意識して業務改善に努めた。	2.8	3.0	○ 勤務終了時間の意識づけや、スクール・サポート・スタッフの活用など、努力されていることを感じる。 ○ 充実した授業をしようとすればするほど、時間が足りないのではないかと感じる。 ○ 教職員の評価では少し改善する必要があるという意見があるので、オーバーワークしないように改善点を見直してほしい。先生方の業務は大変だと思うが、出来るだけ児童と向き合う時間の確保をお願いしたい。 ○ ⑬は、先生方の努力を尊重しつつ、意欲を失わせないようにすべきと思う。先生方の健康も大切である。⑭は、実務上は難しいのではないかと感じる。そういう中で児童とよく向き合っていると感じる。 ○ 学校ではなく、県や市からの事務作業が多いと感じる。
	⑭ 業務負担の軽減を図ることで、授業改善及び児童と向き合う時間の確保に努めている。	☆ スクール・サポート・スタッフ、ICT支援員の積極活用により業務量の削減を図り、児童と向き合う時間の確保に努めた。 ☆ ICTの活用(校務支援システム等)促進による業務の効率化を図り、児童と向き合う時間の確保に努めた。			

校長所見	【全体所見・令和4年度の方策】
	<p>1 学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学力向上に向けて、ICTを効果的に活用できるよう、職員も児童もスキルアップに取り組むとともに、指導法の研究に努める。 ○ 学校図書司書や各種の読み聞かせを活用し、また図書室や図書館の利用を推進し、学校外での読書を推進して家庭との連携を進める。 <p>2 心の教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 気持ちのよい挨拶のできる指導や命を守る指導を継続し、感染症に関わることも含めて人権教育を推進する。 ○ 毎月の「心のアンケート」をマンネリ化しないように努め、職員で情報を共有し、いじめの早期発見・対応や悩みの解決に組織で対応する。 <p>3 健康・安全の充実について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 現状のように次年度も感染症予防に全校で取り組み、新しい生活様式の中で、健康の保持・増進に努める。 ○ 体力向上プランや保健関係の目標に到達できるよう、本年度の体育振興教員の派遣等も活用し体育学習を充実させ、課題解決に努める。 <p>4 家庭・地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 感染症予防の中で、地域コーディネーターを核とした新たな家庭・地域と連携した教育活動が進められるよう努力する。 ○ 各種通信やホームページで学校情報発信に努め、学校運営協議会を活用して家庭・地域との連携をさらに深める。 <p>5 働き方改革の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 個人や組織の目標を明確にし、協働して目標を達成する職場の雰囲気づくりの醸成を図り、管理職のリーダーシップのもとで、全員が意識できるようにする。 ○ 児童と向き合う時間の確保のためにも、スクール・サポート・スタッフや各種支援員の活用に努める。

